

生徒による授業評価について

◎ H24年度の授業評価について

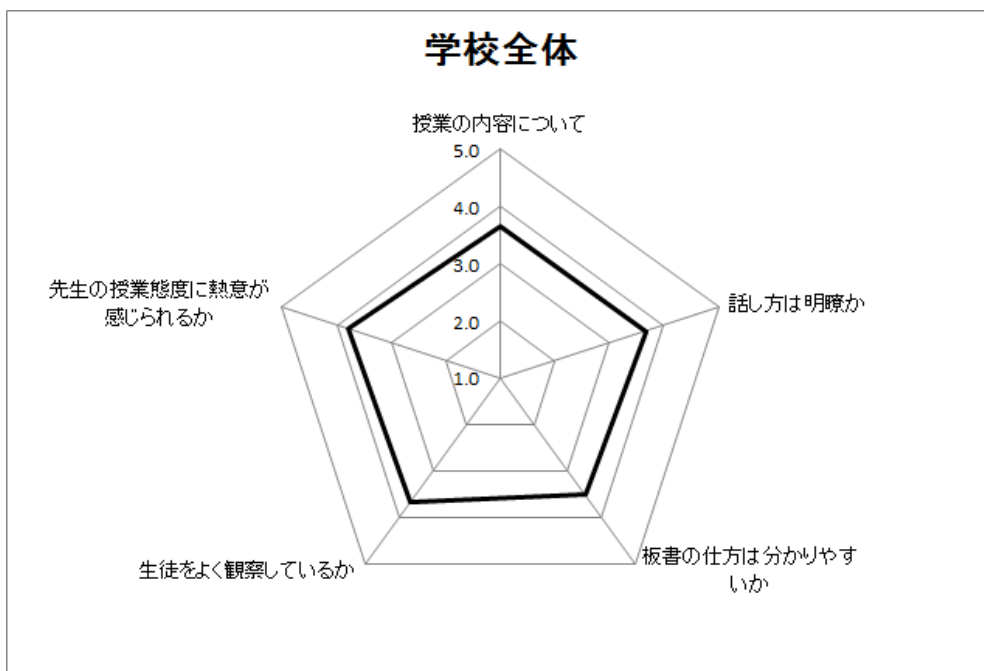
H22年度、23年度に引き続いて、生徒による授業評価を実施しました。

1学期末(7月)に、下記の5項目「A、授業内容について B、話し方について C、板書の仕方はわかりやすいですか D、生徒を良く観察していますか E、先鋭の授業態度に熱意が感じられますか」について、生徒が5段階で評価しました。また、「授業について感想・意見」があれば、生徒が自由に書くことが出来る欄を用意しました。このアンケートは記名式で、生徒がアンケート用紙を自宅に持ち帰り記入して、封筒に厳封し提出しました。

個々の教員には、各項目について「学校全体平均・教科の平均・教員個人」の値を「度数分布・割合・レーダーチャート」にして結果内容を知らせ、『わかる授業』を目指し、授業改善・授業力UPに役立ててもらっています。2回目は3学期に、1学期と同様のアンケートを実施しました。

| | 項目 | 回答 | | | | |
|---|-------------------|-----------|----------|----|------------|---------|
| | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| A | 授業の内容について | 大変満足している | ほぼ満足している | 普通 | やや不満 | 不満 |
| B | 話し方は明瞭ですか | 大変良く当てはまる | 良く当てはまる | 普通 | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| C | 板書の仕方はわかりやすいですか | 大変わかりやすい | わかりやすい | 普通 | ややわかりにくい | わかりにくい |
| D | 生徒を良く観察していますか | 大変良くしている | 良くしている | 普通 | あまりしていない | していない |
| E | 先生の授業態度に熱意が感じられるか | 大変感じられる | 感じられる | 普通 | あまり感じられない | 感じられない |

生徒による授業評価を学校全体（非常勤講師を含む）の結果をグラフ化しますと下記のとおりです。



教員による自己評価について

◎ H24年度、教員による自己評価をH22、H23年度と同じ項目で、2012年12月に実施しました。

H24年度学校評価（評価項目・設問）

「評価の観点」・・・重点テーマに沿った評価要素

「評価項目」・・・「評価の観点」をより具体的にしたもの

4：よく当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：まったく当てはまらない

| | | H24年度学校評価(評価項目・設問) | | 2012年12月 | | H24年度 | | H23年度 | | H22年度 | | |
|-------------|--|-----------------------------------|---|------------|-------------------|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|------|
| 分類 | 評価の観点 | 評価項目 | 設問 | 設問番号 | 40 数 | 30 20 10 数 | H24 平均 | H23 平均 | H23 平均 | H22 平均 | | |
| 学校運営 | 評価の観点 独自の 教育課程 教職員連携 財務関係 情報公開 危機管理 開かれた学校づくり | 建学の精神について | 建学の精神が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。 | 1 | 22 | 23 | 4 | 0 | 3.37 | -0.14 | 3.51 | 2.9 |
| | | 愛校心について | 在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。 | 2 | 20 | 26 | 3 | 0 | 3.35 | 0.08 | 3.27 | 3.1 |
| | | 学習指導要領の対応状況 | 教育課程は学習指導要領に沿っている。 | 3 | 36 | 12 | 1 | 0 | 3.71 | 0.13 | 3.58 | 3.3 |
| | | 教育計画について | 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。 | 4 | 24 | 20 | 4 | 1 | 3.37 | -0.25 | 3.62 | 3.3 |
| | | 教員・教科間連携状況 | 教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。 | 5 | 6 | 20 | 17 | 6 | 2.53 | 0.04 | 2.49 | 2.2 |
| | | 教員と事務職員の連携状況 | 教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。 | 6 | 9 | 23 | 13 | 4 | 2.76 | 0.14 | 2.62 | 2.5 |
| | | 会議の有効性 | 教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効果的に機能している。 | 7 | 4 | 13 | 22 | 10 | 2.22 | 0.15 | 2.07 | 2 |
| | | 財務に関する意識 | 学校の経営指導と財務状況について理解している。 | 8 | 5 | 13 | 25 | 6 | 2.35 | -0.16 | 2.51 | 2 |
| | | 財務状況の把握について | 予算、決算の収支の状況について理解している。 | 9 | 4 | 11 | 25 | 9 | 2.20 | -0.16 | 2.36 | 2 |
| | | 評議員・理事会機能について | 評議員会、理事会の役割や機能について理解している。 | 10 | 2 | 10 | 27 | 10 | 2.08 | -0.10 | 2.18 | 1.9 |
| | | ホームページの活用状況 | 学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。 | 11 | 15 | 27 | 7 | 0 | 3.16 | -0.08 | 3.24 | 2.8 |
| | | 授業公開状況 | 保護者などへ授業を公開している。 | 12 | 23 | 19 | 6 | 1 | 3.31 | -0.07 | 3.38 | 3.1 |
| | | 役割分担について | 事故・事件、災害時に対応する役割分担が明確にされている。 | 13 | 8 | 21 | 19 | 1 | 2.73 | -0.03 | 2.76 | 2.4 |
| | | 危機管理対応状況 | 危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とれている。 | 14 | 6 | 29 | 13 | 1 | 2.82 | -0.07 | 2.89 | 2.5 |
| | | 開かれた学校づくり | 地域や地域住民との交流ができています。 | 15 | 4 | 20 | 23 | 2 | 2.53 | -0.18 | 2.71 | 2.3 |
| 教育内容 | 情報教育 人権教育 環境教育 健康・食育 生徒会活動 読書推進 その他 | 生徒の情報活用能力の育成を図っている。 | 生徒の情報活用能力の育成を図っている。 | 16 | 6 | 26 | 17 | 0 | 2.78 | -0.06 | 2.84 | 2.5 |
| | | 情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。 | 情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。 | 17 | 7 | 24 | 17 | 1 | 2.76 | -0.08 | 2.84 | 2.6 |
| | | 研究体制 | 人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。 | 18 | 10 | 18 | 20 | 1 | 2.76 | 0.09 | 2.67 | 2.4 |
| | | 教育体制 | 人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。 | 19 | 13 | 23 | 13 | 0 | 3.00 | 0.09 | 2.91 | 2.5 |
| | | 環境問題意識向上 | ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育を行っている。 | 20 | 11 | 24 | 12 | 2 | 2.90 | -0.06 | 2.86 | 2.7 |
| | | 実践的態度の育成 | 生徒に清掃、校内美化に身体を組ませている。また、施設、設備を大切にすることを育成している。 | 21 | 17 | 27 | 5 | 0 | 3.24 | -0.20 | 3.44 | 3.3 |
| | | 健康・食に関する指導について | 健康教育、食育などにも配慮している。 | 22 | 9 | 21 | 19 | 0 | 2.80 | 0.02 | 2.78 | 2.8 |
| | | 生徒会活動支援状況 | 生徒会活動を通して、生徒が主体的に活動できるような学校全体で支援している。 | 23 | 9 | 28 | 9 | 3 | 2.88 | 0.41 | 2.47 | 2.5 |
| | | 読書推進 | 図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。 | 24 | 9 | 26 | 14 | 0 | 2.90 | -0.04 | 2.98 | 3 |
| | | 部活動 | 部活動は活発だ。 | 25 | 6 | 22 | 20 | 1 | 2.67 | -0.04 | 2.71 | 2.4 |
| | | ボクシング | ボクシング活動は活発だ。 | 26 | 4 | 17 | 22 | 6 | 2.39 | -0.14 | 2.53 | 2.3 |
| | | 学校行事 | 体育祭、文化祭などの学校行事は活発だ。 | 27 | 11 | 29 | 9 | 0 | 3.04 | 0.02 | 3.02 | 2.8 |
| | | スポーツ・芸術文化 | スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。 | 28 | 10 | 24 | 14 | 1 | 2.88 | 0.01 | 2.87 | 2.9 |
| | | 国際理解 | 他国の歴史、文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。 | 29 | 10 | 16 | 22 | 1 | 2.71 | 0.02 | 2.69 | 2.6 |
| | | 生徒指導・支援 | 生徒指導 生徒支援 教員研修 | 生徒指導方針の一貫性 | 生徒指導は学校の方針に従っている。 | 30 | 22 | 23 | 4 | 0 | 3.37 | 0.01 |
| 生活指導について | 生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。 | | | 31 | 17 | 20 | 12 | 0 | 3.10 | -0.06 | 3.16 | 2.8 |
| 家庭との連携状況 | 生徒指導において、家庭との連携ができています。 | | | 32 | 18 | 26 | 5 | 0 | 3.27 | -0.04 | 3.31 | 3 |
| 学習指導について | 学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。 | | | 33 | 14 | 26 | 7 | 2 | 3.06 | -0.10 | 3.16 | 2.9 |
| カウゼリング体制 | カウゼリング体制を自ら入れた支援体制がある。カウゼラーの活用ができています。 | | | 34 | 20 | 22 | 7 | 0 | 3.27 | -0.22 | 3.49 | 2.9 |
| 進路指導について | 生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。 | | | 35 | 18 | 25 | 10 | 2 | 3.20 | -0.04 | 3.24 | 2.9 |
| キャリア教育 | 様々な職業・資格を理解し、将来に社会を担える人材を育成する。 | | | 36 | 12 | 25 | 10 | 2 | 2.96 | | | |
| 教員の資質向上について | 教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。 | | | 37 | 6 | 14 | 21 | 8 | 2.37 | -0.27 | 2.64 | 2.3 |
| 校内研修 | 効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。 | | | 38 | 10 | 14 | 19 | 6 | 2.57 | -0.14 | 2.71 | 2.2 |
| 初任者等サポート状況 | 初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。 | | | 39 | 9 | 14 | 18 | 8 | 2.49 | 0.13 | 2.36 | 1.9 |
| 校外研修 | 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。 | | | 40 | 7 | 15 | 22 | 5 | 2.49 | 0.16 | 2.33 | 2 |
| 研修成果の共有状況 | 研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。 | | | 41 | 6 | 11 | 26 | 6 | 2.35 | 0.11 | 2.24 | 1.9 |

H24 年度のまとめ

2013 年 3 月

H23 年度と比較して全体の平均が、2.87 から 2.85 へと「-0.02」で、小数第 2 位を 4 捨 5 入すると同じ 2.9 である。全教員が移転・共学にむけて、広報活動・事務業務など様々な活動に取り組んだことにより、教育力・授業力UPへの取組みがすこしなおざりになった。また、今年度は新たに、7人の常勤講師の先生方を迎えたことの影響があった。

○ 特に顕著な項目

- ・ 4 教育計画について 「-0.25」
シラバス(教科進度表)がややマンネリ化の兆しがある
- ・ 34 カウンセリング体制 「-0.22」
今年度からほっとす担当は2人体制にして、ほっと利用の生徒が増えてきている状況に対応できるようにした。しかし、担任・ほっと担当の間での連携や学力保障などまだ改善する課題などがある。
- ・ 37 教員の資質向上について 「-0.27」
新任教員の間で自主研修に取り組んではきたが、教員間での連携・意見交換などが少し弱かった。
- ・ 8~10 財務関係 「-0.16~-0.10」
今年度は本部から財務についての啓蒙がなかったため、財務関係の意識が希薄になっていた。
- ・ 23 生徒会活動支援状況 「+0.41」
文化祭では、クラスカンパニーや新たな取組みなどを実施した結果が大幅なUPになった。

課題：教員連携と教員研修

学校協議会による評価

評価委員会の体制

学校協議委員会は9名の委員よりなり、その内訳は「同窓会役員1名、大学特任教授1名、中学校校長2名、元中学校校長1名、塾長2名、PTA役員1名、教育誌編集長1名」です。

◎平成24年度第2回学校協議会記録

平成25年2月28日（木）11時45分より1時間

（当日は、卒業式、卒業をともに祝う会があったので短時間でした）

協議事項

- ・東大谷高校の志願状況について
- ・東大谷高校の移転後の課題について

◎平成24年度第1回学校協議会記録

平成24年7月14日（土） 10時より12時半

協議委員9名全員出席 学校6名出席

協議事項

- 1、新校での教育のあり方について
- 2、入学生徒数の確保にむけて
- 3、男子生徒の応募を増やすには？

各委員の意見・提言(順不同)

〇〇委員

- ・男子生徒はやはり部活動、進学実績に関心がある。それから制服にも結構関心を持っている。
- ・卒業生が、中学校を訪問して話す、と言うのはすごく効果がある。是非とりくむべき。

〇〇委員

- ・野球部、バスケット部、サッカー部などクラブ活動のPRが効果的。
- ・入学案内で、どのようなクラブがあるかを早くからPRしなくては。
- ・新校ということで、全てにおいて「君たちが1期生なんだ、君達が新しく学校をつくるのだ！」というモチベーションを高める工夫やPRづくりを是非。
- ・タブレット端末は男子にとっても魅力の一つになろう。
- ・親の心配は、3年後の進路のことが大きい。これまで女子校で来たために、男子生徒の進路は大丈夫か？という不安がある。大学を回って男子向けの学部などの指定校を増やすなどの進路開拓が必要である。

〇〇委員

- ・大阪は「新しい物が好き」なところがあるから成功すると思う。
- ・大事なのは説明会に足を運んでくれた人をキチンと囲い込むこと、それとまだ来てくれていない人を

どう取り込むか？広報・宣伝を大々的にやる、ネットや動画配信もやってみること。

- ・SS+2、とあるが合否基準は24年度と同じで行くほうがよい。欲張らずに、1年目はともかくガマン。男子はやや下げてマイナス10点位で行くべき。1年目でたくさん集めて活気を作る事が大事。
- ・活気をつくり、一方で生徒達に夢を語り、新校を自分らで作るんだというワクワク感を持たせることが必要。
- ・日本学はいい。日本人としての自尊感情をしっかり持たせることがグローバル社会の教育には欠かせない。

〇〇委員

- ・私学の進学校は、ついていけない生徒を安易に切り捨てる傾向があるが、東大谷では一人一人の生徒を大切にしておられる。心のケアや不登校生徒へのサポートなど、いわば教育の本道を大切に取り組んで居られる。ここのところは自信を持ってPRすることが必要である。
- ・私の経験則から、女子校が共学化した場合、入ってくる男の子は、真面目でおとなしい生徒である。このような男子生徒は派手さはないが、手厚い教育をしていけば大変鍛え甲斐があるし、それが立派な評判になって学校の評価は高まると思う。
- ・共学化で男子生徒が入ってくるからと言って、男子向けのクラブに拘らなくとも、もっと別な面で伸ばせるのではないか。クラブだけが全てではないと思う。

〇〇委員

- ・5月26日に900人の参加者があったということで、周りの学校（公立・私立を問わず）驚いている。しかしそれに楽観的になるのではなく、シビアに取り組んで欲しい。悲観的に取り組んでこそ楽観が生まれる。
- ・東大谷や羽衣の共学化は、いわば後発組になる。この際、先発組の学校からしっかりと成功例や失敗例を学ぶことが大事だ。
- ・学校として、新校で[期待される生徒像]のイメージをもっと鮮明に打ち出し、それを宣伝すべきでは。
- ・今の大学生の語学力の低さには、驚いている。特に漢字力は危機的状況だ。「吾妻鏡」や「牛耳る」など、全くナンセンスな読み方をする学生が多い。
- ・公立出身者として、このDVDを見て感心した。DVDをもっともっとPRに活用したら。

〇〇委員

- ・大学の現状から、新校の教育のあり方を学び取ることが大事だと考えているが、準備室で考えておられる「新校の教育のあり方」は素晴らしいと思う。なぜなら今、大学も改革期に来ている。大学での議論は①18歳人口の減少 ②大学教育の質的転換 ③グローバル化への対応 ④地域社会との連携及び貢献などである。そのような状況の中で、大学入試のあり方も変化してきているし、知育一辺倒から関心・態度をどう育てるか、また「社会人基礎力[判断力・思考力]」の育成が大きな課題と考えられている。
- ・新校の基本方針として「言語力の育成」を掲げられているが、言語力は全ての教科の基礎であり、言語力は全ての教科の基礎であり、そのことをしっかりPRされたらどうですか。

〇〇委員

- ・モチベーションを高く出来れば、多様な生徒でも高校で驚くほど成長する。モチベーションをどう高めるかの工夫が大事であろう。
- ・生徒の質的变化に合わせた教育が必要となってきた。一斉授業のスタイルだけではこれからは持たなくなっている。個々の生徒への丁寧なサポートが必要な時代である。新校は一斉授業と集団作り

の二本立てで臨むのがよいのでは。

- ・ICT 機器の充実素晴らしいと思うが、どのような教育効果があげられるのか？一部の先生の自己満足に終わらないようにするために研修などが重要ではないか。
- ・外に打ち出す時に[国語力の育成]というか[言語力の育成]というか、だが、学習指導要領では「言語活動の充実」と言っている。
- ・入試の教科は5教科か3教科なのか、もう少し中学生や保護者に分るような説明が欲しい。
- ・工事の進捗状況は？4月開校に間に合いますか？

〇〇委員

- ・私も娘も東大谷の卒業生だが、卒業して東大谷の良さが身にしみて感じている。在校中は[厳しい、とか、手を合わす]事とかに抵抗もあったが今は本当に良かったと娘と話している。其のような良さをもっとPRしてほしい。
- ・東大谷の卒業生だけで28000人いるが、東大谷の移転共学について全く知らない人も多い。また移転・共学化してどのような学校になるのか大変、心配している人も多い。もっとPRをして欲しい。例えば成美会(同窓会)のHPに関連記事を書けるとかして欲しい。
- ・スクールバスが出ると聞いたが、スクールバスは走る広告塔だと思う。大いに東大谷の宣伝を、それから大阪大谷大学のこともPRしたらいいと思う。

〇〇委員

- ・東大谷の在校生を、母校の中学に積極的に訪問させて、東大谷のPRをしてもらうのは大変効果があると思うので、是非取り組んで欲しい。
- ・5月26日の説明会のアンケートの回答では、大変評判が良いし、期待感も感じられる回答が多い。これらのことをHPなどで発信していくことも大事ではないか。

◎平成 23 年度学校協議会記録

平成 23 年 7 月 7 日

12 時より 14 時

協議委員 9 名中 8 名出席

学校 8 名出席

校長より、本校の近況とH25年度から泉ヶ丘に移転し本校の教育理念を男子にも普及する意義の説明があった。

副校長より、移転に至る主な経過と移転後の本校のあり方の説明があった。

協議委員の方々より、「移転・共学」について貴重なご意見を頂戴いたしました。

また、報告事項として、

- (1) 春休み後の保護者アンケートでは「本校の教育方針に満足しています。」「子どもは喜んで通学しています。」「家事手伝いをよくするようになりました。」「宿題もきちんとやっています。」など総じて前向きな感想が寄せられている。この保護者アンケートは夏・冬・春休み後、年3回取っている。アンケートの感想や意見はその後の学校運営に反映させている。

(2) 夏休み中のイベント

- ・ 第4回「親学支援セミナー」の開催 8月20日

服部祥子先生による「精神科医の親子論」

(後援)大阪府教育委員会・堺市教育委員会

(これは府民向けの講座であり、親子の絆が弱くなっている今日、より良い親子が構築されることを願い、平成21年度から開催しています。)

- ・ 「心のケア 実践発表会」の開催 8月24日

(後援)大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会

(3年前から校内組織として「メンタルサポート委員会」を設置し、「ほっとする一む」を設け、不登校気味の生徒に様々なケアを行っています。今回、府内の中学・高校の先生方に本校の取り組みを広く紹介し、心のケア活動の参考になればという観点から本校の実践を報告しました。)

(3) 「キャリア教育の推進について」

本校では生徒達に10年後の自分がどのような仕事を通じて社会に参加し世の中のお役に立てるかをイメージさせ、各自の進路(大学・学部・専門学校)の選択がおこなえるよう進路指導の一環として「10年未来プロジェクト」を推進しており、大阪府によりこのプロジェクトが「実践的キャリア教育推進校」に私学の中堅進学校として唯一認定されました。

(4) 「教員による自己評価」についての協議委員会での意見

- ① 学校の教育方針・伝統について職員間で共有されている。
- ② 学校の建学理念である「報恩感謝」の精神なども、朝終礼や日々の教育活動の中で良く具現化されている。
- ③ 生徒達による授業評価においても総じて満足度が高いと見受けられる。
- ④ 私学であることを踏まえた財務関係についての理解度は不十分であり、今後の啓発が必要である。
- ⑤ 移転・共学化を踏まえて、今後東大谷高校の教育の中身や今後の取り組みなどを中学生・保護者への情報提供など広報活動を重視していただきたい。

◎平成22年度学校協議会記録

第1回 平成22年5月19日(水) 12時30分より14時30分

協議員8名中8名出席 学校7名出席

学校が現在取り組んでいる点

1. 生徒の学力向上にむけて、授業評価の大切さなどについての意見交換を行いました。
2. 建学理念を生かす方策についての提言など
3. 生徒募集面での中学校や塾等との連携について
などについて貴重なご意見を頂戴いたしました。

第2回 平成23年2月28日 12時より13時

協議員8名中6名出席 学校4名出席

1年間の学校の取り組みを説明し、生徒による授業評価、職員による学校評価の結果を踏まえご意見を頂戴し、学校のいい点、建学の理念が生かされ、生徒一人一人を大切にしている様子を改めて認識し、また課題として浮かび上がる財務認識の改善や、職員の研修体制への取り組みなどについてご意見を頂戴いたしました。